

Give Back the Human



Michio Oki,
Infinite Spiral Series 2022

Sculpture, Photographic Artwork, Video Work, Art Performance

Nagasaki Peace Museum

Photographed by ©roto

大木道雄
無限渦巻
2022
彫刻、写真、映像、アートパフォーマンス

肉と霊で六極と切り結ぶ“平和の求道者”

漂泊のアーティスト大木道雄の魂の根源を探る

武田洋平 ICI 国際文化研究所所長 評論家



「日本文化週間 in トビリシ2003」(国際交流基金助成公演)：国立トビリシ・アジア・アフリカ大学付属東洋学研究所、トビリシ=グルジア(現ジョージア)

●肉体に引き寄せる靈魂

旅は、精神の放浪を内包する。放浪は往々に、更に深化した漂泊を生む。放浪と漂泊の違いは、私なりの解釈では、自らの意思で肉体の放埒を重ねるを前者とし、霊的な存在の差配で操り人形然と足が動くを後者とする、のである。ギリシャ独立戦争に応援に駆け付けた19世紀の英詩人バイロンは南欧に放浪を重ね、俳人松尾芭蕉や歌人若山牧水は漂泊を日々の友とした。東西文人の旅のスタイルの違いの根底には、合理と達観という相反する人生観の力点の傾き具合が作用しているのではないだろうか。

ではパフォーマンス・アーティスト、大木道雄の場合はどうか。

世紀をまたぎJAPAN FUNDATION (国際交流基金)の助成を得て、映画に音楽また文化講演などをバルト三国や旧ソ連諸国等の日本との関係が希薄な国々で私が主宰してきた「日本文化週間」に大木は常連参加者の一人であったが、団体行動の合間に、例えばグルジア(現ジョージア)で「百万本のバラ」のモデルにされた画家ニコ・ピロスマニの生家を山中に訪ねて戻る道すがら、休憩にと立ち寄った小邑で忽然と姿を消し、大きな木の下で居合わせた地元の子供たちと戯れる姿からは、漂泊者のイメージが色濃く見え隠れする。

本人が言う通り、「森の精霊に導かれ」ての所作である。血潮がうずまく己の肉体に靈魂を引き寄せることで、立体的な可視に耐えうる作品の成立を期す大木にとり、斯様な遊戯の延長線上にある「魂の漂泊」こそが—それも彼が日ごろから口にする「純真な心の持ち主」である年少者たちに導かれるのであるから—彼の一目見奇怪とも思えるパフォーマンスを産み出す源泉なのである。

●視野に入るアウシュビッツ

原色の上っ張りの下に隠した赤い下帯なる男振りな姿で登場し、蛮声を張り上げつつ越後女郎の哀切なる境遇を唄いこんだ俗謡を自分なりにモディファイして会場に響かせれば、被った菅笠を節ごとにヒョイと頭上に掲げるときに発する「オイッ！」なる叫び声が瞬く間にギャラリーに伝染し、間髪入れず威勢よく処処で呼応した。「何を意味するのか？」なる当初の至極当たり前な疑問は、終演後には綺麗に霧散している。「大木マジック」、ありていに申せば、同人なりの「目くらまし術」の効果であろう。

そのマジックが究極の目標とするところに世界平和が付置されている、とするのは、聊か論理の飛躍であろうか。しかし彼が何年にもわたって、愚直にも世界各地で演じてきたそれは磨き上げられ、至芸の域に達している。

私が大木の名に触れたのは、ラトヴィアの首都リガで文化週間を催したとき、現地の人から「このまえ不思議な日本人パフォーマーがこの町で」と聞き及んだのだ。その後、人を介して当の大木から連絡が入り、当時在京の大学に籍を置いていた私の研究室を訪ねきた彼からは、目指す究極のゴールが平和の達成である、との熱い志がガッチリした体から滲み出ている。私の研究テーマもまた、世界の恒久平和の構築であった。平和を結節点に、吾らは急接近したのだ。

しかし“平和”なる一単語二文字は、言うは易いが実現には程遠い。冷戦構造が消滅し、これで核戦争の恐怖とは永久にバイバイ、と世界は一瞬、薔薇色に光り輝いたも

の、永続しなかった。大国の抑圧下に在った少数民族が、頭を擡げだしたのだ。世界各地で戦火が噴き出した。しかも仮に国連の介入で硝煙が収まったとて、また別のところで武力が活動を始める。一時にせよ全世界が平和で在ることは、無に近い。吾ら世代の存命中に是非にや実現を期待したい人類の祈願、それが平和なのである。

● 亡父の軍靴が鎮魂の原点

しかし確実に平和を呼び込むための算段に、人類は頭を悩ませてきた。一手段として、過去の悪行に学ぶことが考えられる。ナチスの蛮行、即ちユダヤ人殲滅作戦が一例で、要するに「アウシュビッツに学べ」である。大木自身も、虐殺の地でのパフォーマンスを自らの一通過点に設定していると言っている。それを聞いたとき、私は同収容所における遺品の展示物を思い出した。ガス室より運び出された犠牲者から剥ぎ取った金歯や毛髪などである。それらの中には無数の靴が無造作に積み上げられていた。

一方、蠟で象った靴型が闇の中で妖しげな光を発する大木のコラージュは、帝国陸軍将校だった亡父の遺した使い古しの軍靴が原型なのだが、地面や床面に並べた蠟燭の灯りに照らし出された無数の靴形が、軍国ニッポンが産んだ太平洋戦争の犠牲者への鎮魂を意味するとすれば、主の足を求めてガラスケースの中に彷徨うユダヤの民の遺品もまた、民族を超えて弔われるべきであろう。二つながら波長を合わせつつ切り結ばれ、大木の肉体を借りて戦争に殺された者たちの重く切ない叫び声となって届いてくる。

今年2022年秋、長崎で大木展が開催される。同地は言わずと知れた原爆投下の町であり、広島とともに世界に核兵器の廃絶宣言を発信する二つの世界都市であり続ける。

● 核戦争の恐怖いままた

人類は、1962年キューバ危機のように核戦争勃発の寸前まで行った時もありはしたが、曲がりなりにも持ちこたえてきたのも、このヒロシマとナガサキが、いわば表面張力の役割を果たしてきたと言えるのではないか。溢れでる一步手前でかろうじて踏みとどまってきたのも、核兵器の発射ボタンを握る大国の指導者が、二都市のかつての惨状を一瞬、脳裏に浮かべたからに違いない。

ところがウクライナ戦争を巡っての先のプーチン発言で、久しく眠っていた核戦争の恐怖が起き上がった。ウクライナから遠く離れた日本でも、地下シェルター業者が多忙を極めている、とテレビのニュースが報じる。そのウクライナでは、毎日が死を前にしての恐怖の市民生活が展開される。かつて我々デレゲーションを前に、日本の漫画やアニメへの憧れを熱っぽく語るクリミヤの少年少女は、事無く過ごしているだろうか。きっと大木も、彼らひとりひとりの顔を念頭に、立体的な展示に挑むのであろう。

斯様な大木の新たな創作が、自己表現として平和へのアクションプランの常設基地に選ぶ長崎で、将来のアウシュビッツ進出を見据えての前哨戦として、市民各位の協力を得て開催される意義は大きい。しかしそれは大木にとって、終着点ではない。大木道雄の平行脚の漂泊の旅路は、限りなく続くのである。



Photographed by ©Tatsuo Kiryu
(見開きすべて)

「日本文化週間 in キエフ2006」(国際交流基金助成公演): 国立大学キエフ・モヒラ・アカデミー図書館 キエフ(現キーウ) = ウクライナ

未出現の出現

大木道雄 彫刻家（埼玉県立高等学校芸術科美術常勤講師）



※1 森に生徒らと分け入る



※2 大地を捏ね、大地を焼く



※3 ネイチャーメディテーション



※4 こんなふうにも生まれたよ！
(生徒作品)

戦争に加担した陸軍将校が、行軍中に敵機の機銃掃射を浴びた部下の少年兵を、守り切れなかったことへの痛切な悔悟の情から戦後、鎮魂の気持ちを抱き続けていたことを、鬼籍に入る直前に知った。自分は一芸術家として、進むべき道に人びとの手に優しく手を添えて導かなくては、との気持ちを、贖罪しよくざいに身を捧げた亡き父いの、厳つくて広かった背中に生涯、重ねたいと思う。魂の極北を目指すパフォーマンス・アーティストの指針として。

人類は、「命のゆりかご」とも例えられる豊饒ほうじょうな大海原や火山から勢いよく噴出するマグマと同様、あらゆる生命を内包した生命体とも言える地球の一部であり、銀河や全宇宙に内包された存在だと言える。そして、生身の人間として活力に満ち溢れ、豊かな感情がほとばしる存在にほかならない。ひいては、悠久の時間が紡いだ自国の風土や民族の文化、芸術に触発され、奇跡のうちに授かった命を生き切り、丹精込めて人生を織りあげていく存在だ。これを、「本来あるべき人間」の理想の姿と考えるが、果たして、現代人に望むべきか否か、答えに窮する。

さて、現代の世界は、宗教、人種・民族、移民・難民、貧困、年齢、格差、障害、介護、差別、虐待、自殺、ジェンダー／セクシュアリティ、ハラスメント、テロの脅威、ジェノサイド、侵略戦争と、解決の困難な社会問題を筆頭に、利己的な人類の営みが引き起こしている地球規模の環境破壊と気候危機が顕在化している。さらに、猛威をふるうパンデミックに加え、現実味を帯びてきた核の脅威が、研ぎ澄まされた両刃の切っ先となり、人類の喉元に突きつけられた危機的な状況にある。すなわち、人類は、社会規範や価値観が大転換するパラダイムシフトの渦中にあり、このままでは、絶滅の淵に立ち、結果的に、現代文明が終焉を迎える未曾有のカタストロフィーへ突き進むよりほかない。

しかし、希望が、わずかに存在する。特定の価値観を教え込む教育と決別した教師とありのままの自分を肯定して思う存分求めるものを追求し、ひたすら自分の話を聞いてくれて何でも安心して話せる大人を心から欲する生徒、これらの教師と生徒が、共に学び合う、新たな「共育」の取り組みが実現することに、かすかな希望を抱きたい。教師は、学びの現場で、生徒一人ひとりの人生に半歩、一歩と足を踏み込まざるを得ない。そして、心を持った一人の生身の人間として生徒一人ひとりと向き合い、「本来あるべき人間」への成長を促し、「生き切る力」を成熟させるため、何よりも生徒の心の声に耳を傾けることが肝要となる。また、生徒一人ひとりが問題意識と向き合い、ありのままの自分が発見できるよう、人生の先輩として示唆や助言を優しく手渡すことを忘れてはならない。

「共育」の目標は、生徒たち青少年を、「自分自身を取り巻くあらゆるものと調和しながら生きていく存在」へ成長させることだ。例えば、「芸術教育」＋「環境(自然/精神)教育」＋「平和教育」の三領域を統合させた「根本芸術(仮称)」の教育プログラムを

構築することで、人間形成の根幹をなす「五感」や「直観」を鍛錬し養成させる。さらには、大自然に内包されている自覚を持ち、豊かな自然や文化、芸術に触発されて大いに情操の涵養かんようを高めることで、高い感性を持ち創造性豊かな存在となる可能性を、生徒一人ひとりが生涯かけて追及する。

荒唐無稽こうとうむけいなたわごとと、恐らく揶揄やゆされるに違いないが、80億に達する人類の一人ひとりが、「本来あるべき人間」を目指し、自らの「精神」を生涯にわたり内観し人間形成を学び続ける「生涯教育」へ、大きく舵を切らない限り、他者を殺し続ける世界を変革することなど到底実現し得ない。

事例として、2017年から2019年にかけて、埼玉県立芸術総合高等学校映像芸術科で実践した特別授業の一つ、「こんなふうにも生まれたよ！^{※4}」を紹介する。この特別授業では、家族など周囲の人々の記憶に助けられ、また、自分自身が、「オギャー」と産声をあげる実際の体験をとおり、記憶の奥底に眠る誕生する瞬間のイメージを、五感を頼りにしながら徐々に増幅させていく。そのプロセスを色や形で表現し、円形に切ったシリウス水彩紙(直径45cm)で絵画作品に仕上げ、新たな記憶の扉を開き、自分自身の物語を紡ぎ始める契機とした。ほかに、陶芸教材の「大地を捏ね、大地を焼く^{※1 ※2}」、ネイチャーゲーム教材の「ネイチャーメディテーション^{※3}」、「大地の窓：読み聞かせ『葉っぱのフレディー』^{※5 ※6}」、「わたしの木^{※7}」、「木の鼓動^{※8}」、「音の地図」など、多くの特別授業を実践した。

忘れ難い記憶がある。辺境文化研究家の武田洋平団長に率いられ、パフォーマンスアーティストとして、国際交流基金助成公演「日本文化週間 in トビリシ 2003」に出演した際、放浪、或いは孤高の画家と呼ばれたニコ・ピロスマニの故郷ミルザアニ村に遺された生家を見学し、ピロスマニ美術館を鑑賞した帰路、広大な原生林にそびえ立つ巨木の根元で生き生きと遊び戯れるジョージアの子供たちと偶然に出会った。彼らは、ピロスマニが描く、悠久の時を経て威容を誇る峻厳なコーカサスの山懐にいだかれ、厳しくも豊かな自国の風土や民族の文化、芸術に生まれ、伸び伸びと自由奔放に生きていると見受けられた。「本来あるべき人間」を目指し、子供たちが成長していくプロセスは、コーカサスに広がる雄大な自然の生命力に支えられ大いに促進されたことは想像に難くない。

半世紀を費やすも未完しんげいに終わった『死霊』の著者、埴谷雄高はにやゆうたかは、「受精の生存競争でただ一人生き残った私たちは、例外なく、9,999,999人の兄弟殺しの末、宇宙に出現してきた存在にほかならない。」と断言し、「暗黒の宇宙を覗き見たならば、未出現者の亡霊たちが、私たちを弾劾するため、目を凝らし、じっと見つめているに違いない。」と夢想した。「未出現の出現」は、他者を食わずには生きられない私たち人類の一人ひとりへ、「人類が歩んだ過誤ごびょうの歴史」を詰問し、「人類史の誤謬」という形而上学的な問題提起を投げかける「精神のリレー」を走り継ぐ「魂のバトン」なのだ。



※5 大地の窓：読み聞かせ『葉っぱのフレディー』



※6 枯葉の語る言葉に耳をすます



※7 わたしの木



※8 木の鼓動

埼玉県立芸術総合高等学校
映像芸術科 特別授業(2017-2019)

大木道雄の略歴と主な活動

- 1956 埼玉県朝霞市に生まれる
- 1968 立教中学校1年次、彫刻家 小島 弘氏こしまひろむに師事し木彫を学ぶ
- 1976 ヨーロッパ7ヶ国(イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、バチカン市国、スペイン、スイス)に渡欧し、風土・文化・芸術を研修
- 1980 東京造形大学造形学部 美術学科彫刻専攻を卒業
- 1982 武蔵野美術大学大学院造形研究科 修士課程美術専攻を修了
大学院在学中、彫刻家 最上壽之氏もがみひさゆきに師事
- 2018 「プロキョウイク者養成ワークショップ」を修了
まつ きただし 松木正氏(マザーアース・エデュケーション主催、代表)より半年間にわたり薫陶を受ける

●受賞

- 2016 「シェアリングネイチャー奨励賞」最優秀賞
2015年度表彰 指導者養成部門(個人の実践)
公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会

[受賞理由]

高等学校の美術の授業や公開講座、自身が開催するワークショップにおいて、ネイチャーゲームで自然を体験した後に作品を描かせたり、創造させ、想像力を掻き立て、作品づくりへとつなげる独自の方法を確立し、実践をされています。「ネイチャーゲームで五感を研ぎ澄まされると本質を見抜く力『直観』が育ち、精神が研ぎすまされて、多様ないのちを知識ではなくリアルな質感を持って感じとれる人になると思う」と語る大木氏が、芸術活動に込める「自然と平和を愛する人づくり」という考え方は、日本シェアリングネイチャー協会の目的とも合致しています。まさにシェアリングネイチャーを体現している取り組みであり、大木氏の情熱が伝わる意欲的な取り組みであることから、とても高く評価されます。

(下記Web Siteからの引用)

https://www.naturegame.or.jp/for_member/manabi/shoreisyo/003503.html

●文部科学省委嘱事業

- 2001 【手でひらく木の記憶 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 たつのプロジェクト 子どもの「心の教育」全国アクションプラン】:
辰野美術館、手長の桜(樹齢450年)、城前線の桜並木、長野県辰野町

●個展

- 1982 「大木道雄 個展」: 村松画廊、東京都中央区銀座

- 1982 「大木道雄 個展 田遊」: 二人称・画廊、東京都大田区蒲田
- 1982 「大木道雄 個展」: TAO、東京都渋谷区原宿
- 1984 「大木道雄 個展 Parity-Check in Aoki '84 鎮守の森でパリティーチェック」: インスタレーション公開制作、青木村教育委員会後援、恋渡神社/宮淵神社/奈良本神社/夫神社/村松神社各境内、長野県青木村
- 1985 「大木道雄 個展」: ときわ画廊、東京都千代田区神田
- 1986 「大木道雄 個展 Parity-Check at the Temple of Koido in '86

by Michio Oki」: 石彫公開制作、青木村教育委員会後援、恋渡神社境内、長野県青木村

- 1987 「大木道雄 個展 Winter Parity-Check」: 石彫公開制作、青木村教育委員会後援、恋渡神社境内、長野県青木村
- 1987 「大木道雄 個展 Spring Parity-Check」: 石彫公開制作、青木村教育委員会後援、恋渡神社境内、長野県青木村
- 1987 「大木道雄 鬼の糞コロガシ in 北浦和公園」: 石彫公開制作、埼玉美術の祭典 野外彫刻展、北浦和公園(埼玉県立近代美術館隣接)、埼玉県さいたま市
- 1995 「大木道雄 無限渦巻 1995」: 東京都指定文化財 都立古河庭園内 財団法人 大谷美術館後援(旧古河虎之助邸 ジョサイア・コンドル設計)、東京都北区中里
- 1996 「大木道雄 無限渦巻 1996」: 財団法人 大谷美術館後援、東京都北区中里
- 1997 「大木道雄 無限渦巻 未出現の出現」: 財団法人 大谷美術館後援、東京都北区中里
- 1999 「大木道雄 無限渦巻 愁いの王」: 財団法人 大谷美術館後援、東京都北区中里
- 2000 「第5回記念企画 大木道雄 無限渦巻 妻有と北欧から」: 財団法人 大谷美術館後援、東京都北区中里
- 2001 「大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト in フムレゴードン公園(スウェーデン王立図書館前)」: アートパフォーマンス、スウェーデン(ストックホルム)
- 2001 「七ツ寺共同スタジオプロデュース 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト 第2回NAW展 in 大須」: 七ツ寺共同スタジオ、大須観音門前 大須商店街一帯、愛知県名古屋市大須協賛: アサヒビール株式会社
- 2002 「大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト in LATVIA」: ラトヴィア国立海外美術館主催(リーガ城)、ラトヴィア(リーガ)
- 2002 「大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 東京プロジェクト2002 バルトの風とともに」: Gallery&Space AGITT、佐賀町食糧ビル1F、東京都江東区佐賀町
- 2007 「大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 サクリファイス2007 in ART KAWASAKI 2007」: アートパフォーマンス(音担当: 坂本直) 鋼管通5丁目緑地、神奈川県川崎市

- 2008 「1999-2008 涙蠟」: 巷房(3階と地下)、東京都中央区銀座
- 2016 「King of Sadness 愁いの王 2016 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト」: ナガサキピースミュージアム企画、長崎県長崎市
- 2017 「King of Sadness 愁いの王 2017 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト」: アウシュヴィッツ平和博物館企画、福島県白河市
- 2022 「Give Back the Human 大木道雄 無限渦巻 2022」: ナガサキピースミュージアム企画、長崎県長崎市

●プロデュース (展覧会・講演会・コンサート・植樹事業など)

- 2003 「東欧と北欧、そしてトルコから バルトの風とともに」: 国際美術展総合プロデュース、Gallery RAKU 共催、京都造形芸術大学、京都府京都市
- 2005 「小さなシマの美術館 2005 国頭交流の夏」: 芸術祭総合プロデュース、アートミーティング実行委員会主催、白神の映画をつくる会共催、国頭村後援、国頭村楚洲区公民館/国頭村安田区公民館/国頭村比地区「小玉森」、沖縄県
- 2005 「秋・小さなシマの美術館」: 芸術祭総合プロデュース、国頭村楚洲区/アートミーティング実行委員会主催、国頭村楚洲区公民館/旧楚洲小中学校(マーヅ=赤土採集)、沖縄県
- 2006 「小さなシマの美術館 2006」: 芸術祭総合プロデュース、アートミーティング実行委員会主催、国頭村共催、浦添市美術館後援、浦添市美術館講堂/浦添市美術館「実習室-4」/国頭村比地区「小玉森」/道の駅ゆいゆい国頭企画展示室/国頭村森林公園交流センター、沖縄県浦添市、国頭村
- 2007 「学校の命の森づくり in 久高島」: 講演会プロデュース、アートミーティング実行委員会 2007年度企画事業、毎日新聞社/南城市/久高島振興会共催、久高島宿泊交流館/シュガーホール、沖縄県南城市
- 2007 「水と緑の地球のために」: チャリティーコンサートプロデュース、アートミーティング実行委員会 2007年度緊急企画、毎日新聞社後援、シュガーホール、沖縄県南城市
- 2008 「学校の命の森づくり in 久高島」: 植樹事業企画(南城市により公共事業として久高島で実施される)、沖縄県南城市

●ワークショップ

- 2003 「巨木の鼓動 五感でさぐる木の叡智」: 鳩山町高野倉ふれあい自然公園、鳩山町教育委員会主催事業、鳩山町立亀井小学校6年総合学習授業、埼玉県鳩山町
- 2004~2006 「巨木の鼓動 五感でさぐる木の叡智」: 沖縄県教育委員会後援(2005年、2006年)、国頭村比地区「小玉森」、沖縄県国頭村

- 2006 「いのちとこころを感じよう」: 沖縄子ども研究会 設立準備宣言イベント、沖縄大学中庭、沖縄県那覇市
- 2016 「鎮魂の灯り 世界にたったひとつのキャンドルスタンド」: 五木村教育委員会主催「五木村のびのび教室」、五木村立五木東小学校3年生11名、熊本県五木村

●全国造形教育研究大会における研究発表

- 2003 「第56回全国造形教育研究東京大会」演題: 「巨木の鼓動五感でさぐる木の叡智」パネル展示とビデオ上映による研究発表、東京造形大学、東京都八王子市

●国際交流基金 海外公演助成事業 (アートパフォーマンス)

- 2003 「日本文化週間 in トビリシ 2003」(国際交流基金助成公演): 国立トビリシ・アジア・アフリカ大学付属東洋学研究所/ジョージア国立トビリシ大学/国立高等音楽院、ジョージア(トビリシ)
- 2003 「ウィーン・マルガレーテン 日本文化祭 2003」(国際交流基金助成公演): ウィーン・マルガレーテン公会堂/アムール美術館、オーストリア(ウィーン)
- 2006 「日本文化週間 in キュー 2006」(国際交流基金助成公演): 国立大学キエフ・モヒラ・アカデミー図書館他、ウクライナ(キュー)
- 2006 「日本文化の夜 at フィーフタツハ 2006」(国際交流基金助成公演): 町立文化センター、ドイツ(フィーフタツハ)

●国際芸術展招聘

- 1988 「ドイツ・日本・信州の現代彫刻展 今日の金属造形」: 長野県信濃美術館主催、長野県長野市
- 1997 「芝山国際現代野外アート展 '97」: 芝山仁王尊 観音教寺境内/周辺、千葉県山武郡芝山町
- 1998 「第6回ホーヤー国際木彫シンポジウム」: デンマーク(ホーヤー)
- 2000 「スウェーデン 日本 芸術交流プログラム SJP 創立展」: 駐日スウェーデン王国大使館展示ホール、東京都港区六本木
- 2000 「デンマーク世界木彫の祭典 北欧の夏 2000」: デンマーク(ブルックフス)
- 2000 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000」: 越後妻有郷地域、新潟県十日町市+津南町
- 2001 「第9回ホーヤー国際木彫シンポジウム」: デンマーク(ホーヤー)
- 2001 「第22回 国際インパクトアートフェスティバル」: 京都国際芸術センター主催、京都市美術館、京都市京都市
- 2002 「第10回ホーヤー国際木彫シンポジウム」: デンマーク(ホーヤー)
- 2002 「第1回 国際石灰岩石彫シンポジウム」: Yüzüncü Yil University 創立20周年記念事業、トルコ(ヴァン)
- 2003 「東欧と北欧、そしてトルコから バルトの風とともに」: 国際美術展総合プロデュース、Gallery RAKU 共催、京都造形芸術大学、京都府京都市
- 2004 「スウェーデン 日本 芸術交流プログラム SJP 2004」: 大阪府立現代美術センター、大阪府大阪市
- 2004 国際交流現代美術展「眼差しの東洋・手の記憶 沖縄からの発信」: 浦添市美術館/旧国頭村立楚洲小中学校、沖縄県浦添市、国頭村
- 2009 「日韓匠の心と技」: 國學院大學 学術メディアセンター地下1階 伝統文化リサーチセンター資料館、東京都渋谷区
- 2016 日韓国際学術交流展覧会「東アジアの風になろう」: 駐日韓国大使館 韓国文化院1階 ギャラリー M1、東京都新宿区四谷
- 2019 「20周年春風ながさきより XXI 2019・日葡韓中伯美術交流彩—長崎市・ポルト市姉妹都市提携40周年・ブリックホール開館20周年記念—」: ナガサキピースミュージアム/長崎ブリックホール2F ギャラリー、長崎県長崎市

●シンポジウム

- 2000 「第6回うしく現代美術展 無限造形 2000」演題: 「世界に飛び出せ! 現代美術 僕らの七転び八起き」牛久市民センター、茨城県牛久市
- 2004 「第7回アジア民族造形学会 研究発表大会」演題: 「あらたな

- る彫刻の地平 地域の人々との協働 こころのつながり」
 姫路国際交流センター イーグレひめじ、兵庫県姫路市
- 2007 「アジア民族造形学会 創立10周年記念九州国際大会」 演題：「あらたなる創造世界の地平 辺境の地における人々との協働 こころのつながり」九州国立博物館1階ミュージアムホール、福岡県太宰府市
- 2007 「名桜大学総合研究所 観光環境シンポジウム」 演題：「環境教育と芸術教育の接点」 名桜大学総合研究所 観光環境部門主催、沖縄県名護市
- 2008 「アジア民族造形学会 国際研究ソウル大会」：韓国国立民族博物館、大韓民国(ソウル)
- 2009 「アジア民族造形学会 国際シンポジウム」：國學院大学学術メディアセンター(常磐松ホール/伝統文化リサーチセンター資料館) / 百周年記念講堂、東京都渋谷区
- 2012 「第15回アジア民族造形学会 東京大会」：東京国立博物館、東京都台東区上野
- 2014 「第17回アジア民族造形学会 長野大会」 演題：「精神のリレー 鎮魂の灯りをともして」 塩尻市民交流センター 多目的ホール、長野県塩尻市
- 2016 「第1回東アジア国際学術交流研究大会」 演題：「精神のリレー 鎮魂の灯りをともして 五感を鍛えて磨く高校美術の授業」 駐日韓国大使館 韓国文化院 ハンナレホール、東京都新宿区

- ／屋外、長野県穂高町
- 1987 「Street Exhibition in Ueda '87」：上田城址他、長野県上田市
- 1987 「あさま彫刻展」：長野県東御市湯ノ丸高原
- 1988 「Be-Art '88」：ギャラリー Be-Art、京都府京都市
- 1988 「双葉ノ丘 野外彫刻展」：山梨県双葉町
- 1997 「自然の中の現代美術館」：サンメドウズ清里スキー場 ハイランドパーク 八ヶ岳主峰赤岳山麓、山梨県北杜市
- 1998 「CONTEMPORARY ART FESTIVAL '98」：埼玉県立近代美術館 / 北浦和公園、埼玉県さいたま市
- 1999 「夢の浮橋」第29回現代アーティストセンター展：東京都美術館 第1彫塑室、Bギャラリー、東京都台東区上野
- 1999 「GAW展 Goldengai Art Waves 路地から路地へ パートI」：新宿ゴールデン街-花園神社、東京都新宿区
- 2001 「Michio Oki / Kuniyoshi Murata 二人展」：Galerie Pascale Cottard-Olsson 企画、スウェーデン(ストックホルム)
- 2002 「第3回 NAW展 in 大須」：大須観音門前 大須商店街一帯、愛知県名古屋市中区大須
- 2004 「北御牧村写真プロジェクト」：梅野記念絵画館、長野県北御牧村(プロジェクト期間：2003年8月-2004年6月)
- 2005 「戦後60年企画「今日の反戦展」」：原爆の凶丸木美術館企画、埼玉県東松山市
- 2006 「今日の反戦展 2006」：原爆の凶丸木美術館企画、埼玉県東松山市
- 2007 「ART KAWASAKI 2007」：アウマンの家(THINK敷地内) / 鋼管通5丁目緑地、神奈川県川崎市
- 2015 「被爆70年を考える現代美術展 RING ART P&L 2015」：活水高等学校 活水中学校 / ナガサキピースミュージアム / 長崎歴史文化博物館 / 長崎大学附属図書館ギャラリー / NTTポケットギャラリー、長崎県長崎市

●沖縄県浦添市委嘱事業

- 2005-2006 「沖縄県浦添市 環境教育・環境学習講座 講師」 沖縄県浦添市

●NPOとの連携

- 2003 「巨木の鼓動一五感でさぐる木の叡智」：鳩山町立亀井小学校 6年総合学習授業の記録、「NPO法人 鳩山二十一世紀まちづくりの会」によるワークショップの記録映像制作、埼玉県鳩山町
- 2007 「やんばる学びの森 グランドオープニングパフォーマンス」：「やんばる学びの森」、沖縄県国頭村 共演：坂本直(音担当)

●グループ展

- 1982 「IN VOGUE展」：サンシャインシティ / 日比谷シティ、東京都豊島区池袋 / 千代田区日比谷
- 1983 「OPERA II」第13回現代アーティストセンター展：東京都美術館第1彫塑室、東京都台東区上野
- 1983.10-1984.2 「OPERETTA展」：小浜 / 福井 / 金沢 / 盛岡 / 旭川 / 倉敷 / 福山 / 神戸 / 京都(キャラバン隊として各地をワゴン車で巡回展)
- 1984 「大木道雄 / 藤井龍徳展」：神奈川県立神奈川県民ホールギャラリー、神奈川県横浜市
- 1986 「第1回安曇野現代彫刻展イン穂高」：穂高町民会館 大展示場

- 2016 「RING ART・8+9 現代美術展-地域・国際・平和-2016」：長崎歴史文化博物館 / 長崎ブリックホール2Fギャラリー / NTTポケットギャラリー、長崎県長崎市
- 2018 「春風ながさきよりXX 2018」：長崎ブリックホール2Fギャラリー、長崎県長崎市
- 2018 「忘れないプロジェクト」：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2019 「8+9 2019 ナガサキの地でアートを考える I」：長崎県美術館県民ギャラリー C室、長崎県長崎市
- 2019 「アートパフォーマンス 精神のリレー 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 2019」パフォーマンスユニット 稲妻公演 大木道雄・羽田麗子・大木幸子・田川禎彦・伴太陽：長崎県美術館運河劇場、長崎県長崎市
- 2019 「忘れないプロジェクト」：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市

- 2020 「春風ながさきよりXXⅡ 2020」：長崎ブリックホール2Fギャラリー、長崎県長崎市
- 2020 「長崎市被爆75周年事業 8+9 2020 ナガサキの地でアートを考えるⅡ」：長崎県美術館県民ギャラリーB・C室、長崎県長崎市
- 2021 「春風ながさきよりXXⅢ 2021」：長崎ブリックホール2Fギャラリー、長崎県長崎市
- 2021 「8+9 2021 ナガサキの地でアートを考えるⅢ」：長崎県美術館県民ギャラリーC室／ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2021 「有志展」：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2021 「忘れないプロジェクト」：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2022 「春風ながさきよりXXⅣ 2022」：長崎ブリックホール2Fギャラリー、長崎県長崎市
- 2022 「8+9 2022 さりげない平和を通して(長崎の日常から国際交流の意義まで)」：長崎県美術館県民ギャラリーB・C室／ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2022 『平和と愛 2022』：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市
- 2022 「忘れないプロジェクト」：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市

●コレクション

- 2000 松茸神社(犬伏神社)：「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2000」新潟県十日町市
- 2001 TYGESEN COMPANY 本社：「第9回ホーヤー国際木彫シンポジウム」デンマーク(トンダー)

- 2002 Yüzüncü Yil University：「第1回国際石灰岩石彫シンポジウム」Yüzüncü Yil University 創立20周年記念事業、トルコ(ヴァン)
- 2002 TYGESEN COMPANY 本社：「第10回ホーヤー国際木彫シンポジウム」デンマーク(トンダー)
- 2016 ナガサキピースミュージアム：「King of Sadness 愁いの王 2016 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト」長崎県長崎市

●出版物

- 1987 『現代美術の断面 日韓80年代前期の現況』編集・発行：京都国際芸術センター(発行日：1987年4月26日)
- 1989 『現代美術の断面 日韓80年代中期の現況』編集・発行：京都国際芸術センター(発行日：1989年6月30日)
- 2000 『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000』発行：越後妻有大地の芸術祭実行委員会(発行日：2001年3月27日)
- 2001 『ART GRAPH 11月号 50号記念特別号 特集：生命・環境』発行：株式会社アートグラフ(発行日：2001年11月7日)
- 2001 『現代美術の断面 日韓2000-2009前期の現況』編集・発行：京都国際芸術センター(発行日：2001年12月25日)
- 2004 『現代美術の断面 日韓2000-2009中期の現況』編集・発行：京都国際芸術センター(発行日：2004年5月25日)
- 2005 『ART BOX IN JAPAN 現代日本の彫刻 vol.1』発行：株式会社ARTBOXインターナショナル(発行日：2005年5月10日)
- 2005 『1000の瞳 北御牧村写真プロジェクト』発行：みまき写真実行委員会、発売：日本文教株式会社(発行日：2005年8月15日)
- 2007 『日本紳士録第80版』監修：交詢社／編集：交詢社出版局／出版社：ぎょうせい 「第79版(2005年)」も発行(出版年月日：2007年4月)
- 2011 『公認ネイチャーゲーム指導員報 自然案内人 2011年度版 特集：事例研究』発行：社団法人 日本ネイチャーゲーム協会(発行日：2011年3月15日)
- 2016 『愁いの王 2016 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 2008-2016』編集・制作・発行：大木道雄(発行日：2016年10月12日)
- 2017 『Document 愁いの王 2016 全記録』編集／制作／発行：大木道雄(発行日：2017年1月27日)
- 2017 『愁いの王 2017 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓』編集・制作・発行：大木道雄(発行日：2017年6月1日)
- 2019 『大木道雄全記録 愁いの王 2017』編集／制作／発行：大木道雄(発行日：2019年5月1日)
- 2022 『Give Back the Human 大木道雄 無限渦巻 2022』編集／制作／発行：大木道雄(発行日：2022年9月1日)

●現在の所属学会・社会活動

- ◆国際美術連盟会員 UNESCO
- ◆日本美術家連盟会員
- ◆アジア民族造形学会会員
- ◆自然体験活動推進協議会 CONE 自然体験活動リーダー
- ◆日本シェアリングネイチャー協会 ネイチャーゲームリーダー
- ◆MOA 美術館児童作品展審査委員(東京会場展1回、西東京市児童作品展13回)
- ◆アートミーティング実行委員会代表兼事務局(2005年、沖縄で文化、芸術を介し社会活動を推進する目的で設立)
- ◆アートミーティング・エデュケーション設立(2019年、長野県青木村の工房「野狂庵」内に、「芸術+環境+平和」教育の三分野を融合させた先端的芸術教育プログラムを研究開発し実践する教育研究機関を設立)
- ◆聖学院中学校・高等学校 芸術科 美術非常勤講師(1982-1998)
- ◆開成中学校・高等学校 芸術科 美術非常勤講師(1998-2004)
- ◆埼玉県立高等学校 芸術科 美術非常勤講師(1986-2008)
- ◆埼玉県立高等学校 芸術科 美術教諭(2008-2017 臨時的任用)
- ◆埼玉県立芸術総合高等学校 映像芸術科 常勤講師(2017-2019)
- ◆埼玉県立高等学校 芸術科 美術常勤講師(2019-)



「有志展」2021：ナガサキピースミュージアム、長崎県長崎市 Photographed by ©Yuki Takebe (左下と12、13ページ見開きすべて)



「8+9 2021 ナガサキの地でアートを考えるⅢ」
：長崎県美術館県民ギャラリーC室、長崎県長崎市



「King of Sadness 愁いの王 2017 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト」
：アウシュヴィッツ平和博物館企画、福島県白河市 Photographed by ©Michio Oki





「King of Sadness 愁いの王 2017 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓プロジェクト」: アウシュヴィッツ平和博物館企画 Photographed by ©Michio Oki (このページすべて)



アートパフォーマンス 精神のリレー 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 2019 「8+9 2019 ナガサキの地でアートを考えるI」 主催：RING ART



パフォーマンスユニット稲妻公演 大木道雄・羽田麗子・大木幸子・田川禎彦・伴太陽：長崎県美術館 運河劇場、長崎県長崎市

Give Back the Human

大木道雄 無限渦巻 2022

期間 2022年10月4日(火) - 10月29日(土)
場所 ナガサキピースミュージアム
企画 ナガサキピーススフィア 貝の火運動 - ピースミュージアム
巻頭言 武田洋平 (たけだようへい)
編集・制作・発行 大木道雄 (おおきみちお)
発行所 アートミーティング・エデュケーション
印刷所 株式会社 グラフィック
発行日 2022年9月1日
定価: 本体500円+税

撮影/写真 roto
竹部祐樹 (たけべゆうき)
桐生達夫 (きりゆうたつお)
阿部次郎 (あべじろう)
大木道雄

撮影/映像 田川映像事務所
田川禎彦 (たがわよしひこ)
森琢也 (もりたくや)

ブロンズ鑄造 有限会社 ブロンズスタジオ
高橋裕二 (たかはしゆうじ)
奥敬詩 (おくたかし)
신 규항 (シンギュハン)
中山竜輔 (なかやまりゆうすけ)

陶芸焼成 有限会社 高橋粘土店
高橋和則 (たかはしかずのり)

発色現像方式印画 有限会社 フォトグラフィーズ・ラボラトリー
アートパフォーマンス 大木道雄
大木幸子 (おおきさちこ)
大木明 (おおきあかり)

協力 有限会社 ブロンズスタジオ
株式会社 レモン画翠

デザイン 大熊肇 (おおくまはじめ)

〈ナガサキピースミュージアム〉
〒850-0921 長崎県長崎市松が枝町7-15
<http://www.nagasakips.com/>
museum@nagasakips.com
095-818-4247

〈工房：野狂庵〉〈アートミーティング・エデュケーション〉
〒386-1606 長野県小県郡青木村大字沓掛字琴山A-67

〈大木道雄自宅〉
〒351-0007 埼玉県朝霞市岡1-20-29
mugenzumaki_yakyoan8@yahoo.co.jp
090-2314-8733

アートパフォーマンス『精神のリレー 大木道雄 無限渦巻 魂の交歓 2019』

主催 「8+9 2019 ナガサキの地でアートを考える I」 RING ART
期間 2019年8月4日(日)
場所 長崎県美術館 運河劇場
パフォーマンスユニット 稲妻 大木道雄
羽田麗子(はだれいこ)
大木幸子
田川禎彦
伴太陽(ばんたいよう)
友情出演：丸尾康弘(まるおやすひろ)
撮影／写真 竹部祐樹
撮影／映像 田川映像事務所
田川禎彦
森琢也
音響 FREE STYLE BOX 株式会社
金子太郎(かねこたろう)

Give Back the Human



大木道雄 無限渦巻 2022

彫刻、写真、映像、アートパフォーマンス

10月4日(火)―10月29日(土)

午前9:30―午後5:30

休館日：10月11日(火)、17日(月)、24日(月)

10月9日(日) 午前9:30―午後7:30

10月29日(土) 午前9:30―午後2:00

オープニングパフォーマンス

10月4日(火)午前10:00―

ナイトパフォーマンス

10月9日(日)午後6:30―

ナガサキピースミュージアム

入館無料

〒850-0921 長崎県長崎市松が枝町7-15

<http://www.nagasakiips.com/> museum@nagasakiips.com Phone: 095-818-4247

Photographed by ©roto